

研究報告

行政保健師が認識している地区マネジメントの構造

District management as perceived by public health nurses in Japan

石川麻衣 (Mai Ishikawa)*¹
時長美希 (Miki Tokinaga)*²

川本美香 (Mika Kawamoto)*²

要 約

行政保健師の地区マネジメントを、保健師の実践経験に基づく認識から構造的に明らかにすることを目的に、地区活動の経験豊富な行政保健師10名を対象に、フォーカス・グループ・インタビューを実施し、質的統合法 (KJ法) を用いて分析した。

その結果、行政保健師の地区マネジメントは、《地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き》《目的に基づく活動範囲の見定め》《状況に合わせた活動プロセスのマネジメント》《ケースのマネジメントから広がる地区のマネジメント》《地区に出向く役割に基づくマネジメント》《住民との協働活動のマネジメント》《所属組織内に向けたマネジメント》の7項目で構成される図として示され、そこから、行政保健師の地区マネジメントを向上させる方法について示唆を得た。

キーワード：「地区活動」「地区管理」「行政保健師」

I. はじめに

地区活動とは、一定の地区内に住むすべての人の健康生活に責任をもつ立場から地域社会における集団生活に対して行う行政保健師固有の看護活動であり、地域診断に基づく地区活動計画の立案、実施、評価のプロセスが含まれる。我が国の保健師は、長らく、各保健師が一定地区を分担して受け持つ地区担当制のもと、地区活動を実施してきた。しかし、近年、地域住民のニーズの多様化・高度化への対応として、保健師の活動分野は保健分野から福祉、介護、健康保険などに拡大した。これに伴い、活動形態は地区担当制中心から業務分担制への移行が進み、事業・業務毎の分散配置が進んだ。

そのような時代の流れに対し、2007年、市町村保健活動の再構築に関する検討会報告書で、「地域での活動が保健師の中核業務」とであると、地区活動を中心に据えた業務再構築が提言された。また、地区活動のあり方とその推進体制に関する検討会報告書 (2008)では、地区活動を

「保健師活動の使命を果たす最適な手法である」とし、改めて、地区活動が保健師活動の中核であることが示された。

上記提言がなされた背景には、保健師の地区活動の機能の低下が課題として挙げられており、これまで、地域診断の手法や能力形成に関する研究、継続教育のプログラム及びシステム開発が数多く実施されている。その中で、高橋他 (2007) は、地域診断の必要性について93%が感じている一方で、地域診断の取り組みには84%が困難を感じていると報告している。困難を感じる理由には、時間やマンパワーの不足、作業量が膨大といった作業への負担感が多く挙げられていた。また、地域診断が非日常的な業務と捉えられていたという報告 (佐伯他, 2001) もある。これらは、地区活動の課題が、能力や手法というよりも、むしろマネジメントにあることを示している。

マネジメントは、一般的に、一定の目的を効果的に実現するために、人的・物的諸要素を適切に結合し、その作用・運営を操作・指導する

*¹群馬大学大学院保健学研究科

*²高知県立大学看護学部

機能もしくは方法を指す。2001年に閣議決定された「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」により、公共部門に企業経営的な手法を導入し、より効率的で質の高い行政サービスの提供を目指すこととなり、行政保健師の活動もこの影響を受けている。2012年に改定された「地域における保健師の保健活動に関する指針」では、地域診断に基づくPDCAサイクルの実施が推奨されており、地区活動の実施において、マネジメントの視点を取り入れることが求められている。

保健師の活動とマネジメントの関係については、公衆衛生看護管理として整理されている。公衆衛生看護管理は、日本看護協会(2005)により「保健師が地域で生活する全ての人々を対象とし関係者と協働して行う地域保健活動の目的を達成するために行う地区(地域)管理機能を中核とし、これを円滑に遂行するために行うすべての管理機能の総称」と定義された。地区管理は、地区活動の過程を繰り返しながら、地区全体の健康状態をよりよい状態に変化させていく管理機能(宮崎, 2017)である。これは、言い換えると、保健師の地区活動が地区そのものに対するマネジメントを包含しており、さらに、そのような保健師の地区活動をより質の高い活動として実施するためのマネジメントが地区管理だということである。中板(2009)は、エリアマネージャーとして地区管理に責任を持つ保健師の役割を提唱している。また、公衆衛生看護管理は、①地区管理②事例管理③事業・業務管理④組織運営管理⑤予算管理⑥人財育成・人事管理⑦情報管理⑧健康危機管理の8機能からなり、新任期であっても全ての管理機能を担うもの(日本看護協会, 2005)である。これは、地区活動をより質の高い活動として実施し、地区に成果をもたらすためには、地区管理に限らず、その他の管理能力が必要になることを示している。

このように、地区及び地区活動をマネジメントするという考え方と必要性が提唱されている。しかし、受け持ち地区がよりよい状態に向かうことを目指して行う地区活動の質を高めるために必要なマネジメントだけでなく、受け持ち地区に対し地区活動を実施できるようにするため

に必要なマネジメントを包含したマネジメント、すなわち「地区マネジメント」の解明は進んでいない。保健師のマネジメントに関する先行研究に、委託業務に関する保健師のマネジメントに関する研究(石川他, 2012)、事例管理に着目した教育プログラムの開発(水口他, 2008)、地域づくりにおいて保健師が発揮したマネジメント能力に関する研究(両羽, 2007a, 2007b, 2010)地域包括支援センター保健師のマネジメント機能(両羽, 2018)があるが、これらは事業や活動を単位としたマネジメントに主眼が置かれている。

以上より、行政保健師の地区マネジメント解明をすすめるための枠組みを構築し、行政保健師の地区マネジメントを向上させる方法を開発するために、まず、地区活動の実践経験豊富な保健師の地区マネジメントに関する思い・考えから、地区マネジメントを構造的に捉えることが必要であると考えた。

II. 研究目的

行政保健師の地区マネジメントを、保健師の実践経験に基づく認識から構造的に明らかにする。

III. 用語の定義

行政保健師：行政組織もしくは行政機関に準ずる公的機関に所属し、保健師の職能を用いて主たる職務を遂行する保健師。

地区マネジメント：地区への責任を基盤に地区全体のあるべき姿を描き、その実現に向かって地区活動を質の高い活動として実施し、成果を上げるために行われる一連の取り組み。地区活動の質を高めるためのマネジメントと、地区活動を実施できるようにするためのマネジメントの双方が含まれる。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

質的帰納的研究方法

2. 研究対象

地区活動の経験豊富な行政保健師。A県看護協会保健師職能委員のネットワークをとおして研究対象者を募った。

3. データ収集期間

2015年11月から2016年2月までの間。

4. データ収集方法

フォーカス・グループ・インタビューを実施した。フォーカス・グループ・インタビューは、他者との相互作用的な議論を導くことにより、「多角的な観点から、知覚、信念、態度、経験について、より卓越した、またより深い理解に至ることが可能（ヴォーン他，1999）」となる手法である。フォーカス・グループ・インタビューを行うことで、インタビュー参加者が、他の参加者の意見を聞くことで自らの考えを見つめ直し、新たな発見をすることができるため、より地区マネジメントの認識を広く捉えることが可能になると考えた。

インタビューは、インタビューガイドに基づき実施した。筆者による地区マネジメントの定義を説明したのち、地区マネジメントにあたる自分の実践経験について振り返りながら、グループ内で自由に語ってもらった。筆者の定義に捉われることなく自由に語ってもらうこと、全員に語ってもらうこと、他の参加者の意見を聞いて気づいたことの発言を促すこと、様々な異なる意見が引き出されるよう促すことに留意し、筆者が司会を担当した。

5. 分析方法

行政保健師が認識している地区マネジメントの全体像を構造的に示すため、質的統合法（KJ法）（山浦，2012）を用い分析を行った。インタビューの逐語録から、地区マネジメントに関する思い・考えが含まれた記述を抽出し、元ラベルを作成した。このラベルを、データの主張する内容の類似性に着目して似たラベルごとにグループ化した。グループ化されたラベルに、集めたラベルの全体感からそのグループの内容を表すような文を考え、それを表札として記述し、新たなラベルを作成した。このラベル

のグループ編成を繰り返し、最終的に統合されたグループの内容を特徴的に表すシンボルマークをつけたのち、空間配置を行うことで、全体構造を導いた。空間配置では、関係記号や添え言葉を補助的に用いながら、ラベルどうしの関係性を視覚的に構造化した。

6. 倫理的配慮

本研究は高知県立大学看護学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。参加者に対し研究の協力をお願いし、研究の目的、方法、プライバシーの配慮、研究参加の自由意志の保障、研究結果の公表の仕方について、文書及び口頭で説明を行い、文書にて同意を得た。

V. 結 果

1. 対象者の概要

研究参加者は10人であり、現在の所属は、保健所保健師3名、市町村保健師4名、その他3名であった。年代は、40代4名、50代6名であった。保健師経験年数は15年～34年、中堅期保健師1名、管理期保健師9名であった。

2. 行政保健師が認識している地区マネジメントの構造

元ラベルの総ラベル数は53枚であり、グループ化を行った結果、最終ラベル7枚に集約された。以下、シンボルマークを《》、最終ラベルを【】、インタビューでの語りを「斜字」で示す。

行政保健師の地区マネジメントは、《地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き》《目的に基づく活動範囲の見定め》《状況に合わせた活動プロセスのマネジメント》《ケースのマネジメントから広がる地区のマネジメント》《地区に出向く役割に基づくマネジメント》《住民との協働活動のマネジメント》《所属組織内に向けたマネジメント》の7グループからなるモデルとして示された（図）。

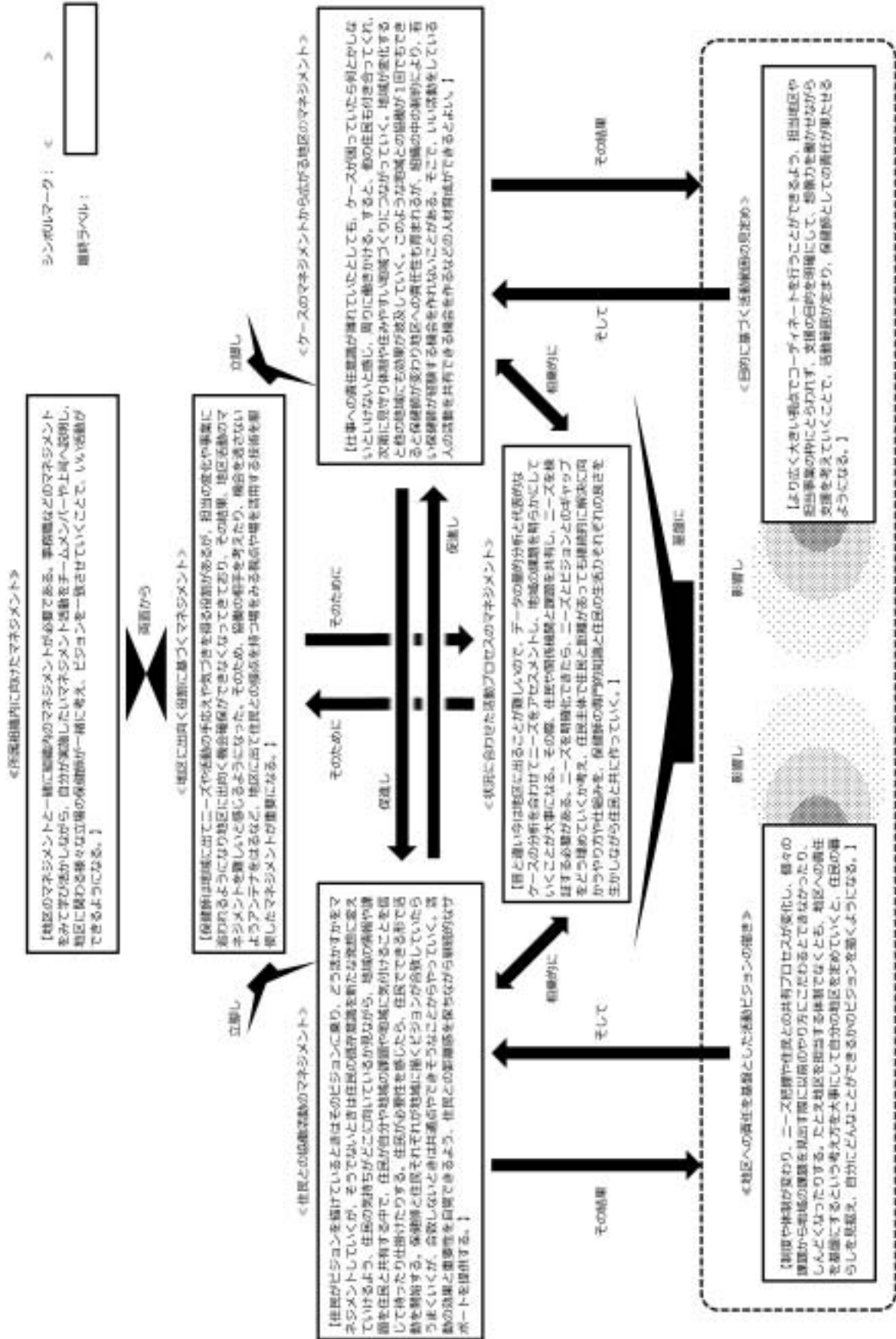


図 行政保健師が認識している地区マネジメントの構造

行政保健師の地区マネジメントは、《地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き》と《目的に基づく活動範囲の見定め》を基盤に、《状況に合わせた活動プロセスのマネジメント》が行われると認識されていた。また、地区マネジメントは、《地区に出向く役割に基づくマネジメント》でもあり、これを基盤に、《ケースのマネジメントから広がる地区のマネジメント》と《住民との協働活動のマネジメント》が《状況に合わせた活動プロセスのマネジメント》と相乗的になされるものであった。《ケースのマネジメントから広がる地区のマネジメント》と《住民との協働活動のマネジメント》が行われることで、《地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き》と《目的に基づく活動範囲の見定め》がさらに促進されていた。さらに、地区マネジメントは、地区に対してと《所属組織内に向けたマネジメント》という、保健師の所属組織中外の両方向に対してなされるものであった。

以下、各シンボルマークについて説明する。

1) 《地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き》

このシンボルマークは、最終ラベル【制度や体制が変わり、ニーズ把握や住民との共有プロセスが変化し、個々の課題から地域の課題を見出す際に以前のやり方にこだわるとできなかつたり、しんどくなつたりする。たとえ地区を担当する体制でなくとも、地区への責任を基盤にするという考え方を大事にして自分の地区を定めていくと、住民の暮らしを見据え、自分にどんなことができるかのビジョンを描くようになる。】から導かれた。

行政保健師は、時代が進み制度や体制などの活動基盤が変わったことで、地区の課題をアセスメントする方法が変化したことを感じ取っていた。しかし、「基本に則る」こと、つまり地区への責任を基盤に据えることは時代が移っても不変であり、それによって活動の展望を描くことから地区マネジメントがはじまると考えていた。

「私の中ですごく大事というか、保健師としてすごく大事なことが、地区への責任というの

が本当にあるなと思うんですよ。で、それを基盤にって考え方というのは、自分たちもそういうふうにならされていたかもしれないし、自分たちも感じていたことかもしれないし。」

「私が今、県の保健師として仕事をするときに、やっぱり自分の保健所の管内が自分の地区っていうふうには思わないと、保健師としての自然というか、どういうふうには仕事をしたらいいかっていうのがやっぱりちょっと定まらない感じになってくるというのは、すごく思う。」

そして、活動が良い方向に進むときには、地区をどうしていきたいかについて保健師のビジョンが存在すると評価していた。地区への責任には、住民個々・仕事・地域に対する責任が含まれていた。

2) 《目的に基づく活動範囲の見定め》

このシンボルマークは、【より広く大きい視点でコーディネートを行うことができるよう、担当地区や担当事業の枠にとらわれず、支援の目的を明確にして、想像力を働かせながら支援を考えていくことで、活動範囲が定まり、保健師としての責任が果たせるようになる。】という最終ラベルから得られた。自分の担当業務における支援の目的は何かを明確化することで、地区活動の活動範囲が見定められるようになると捉えられていた。

3) 《状況に合わせた活動プロセスのマネジメント》

これは、【昔と違い今は地区に出ることが難しいので、データの量的分析と代表的なケースの分析を合わせてニーズをアセスメントし、地域の課題を明らかにしていくことが大事になる。その際、住民や関係機関と課題を共有し、ニーズを検証する必要がある。ニーズを明確化できたら、ニーズとビジョンとのギャップをどう埋めていくか考え、住民主体で住民と距離があっても継続的に解決に向かうやり方や仕組みを、保健師の専門的知識と住民の生活力それぞれの良さを生かしながら住民と共に作っていく。】という最終ラベルから得られたシンボルマークである。行政保健師は、現在の保健師活動の置かれた状況に応じ、どのように地区活動を展開

していけばよいかをマネジメントすることが地区マネジメントに含まれると認識していた。「制度の変化に伴い保健師の活動方法も変化していることから、この変化に応じていく」ことがマネジメントの意義として語られた。変化に応じる具体的方法として、「地区に出向く機会が減少しているため、個の課題の分析と量的データの分析をすり合わせて分析する」ことで対応しており、その「分析の過程で保健師の視点が出る」と考えていた。

4) ≪ケースのマネジメントから広がる地区のマネジメント≫

このシンボルマークの最終ラベルは、【仕事への責任意識が薄れていたとしても、ケースが困っていたら何とかしないとイケないと感じ、周りに働きかける。すると、他の住民も付き合ってくれ、次第に見守り体制や住みやすい地域づくりにつながっていく。地域が変化すると他の地域にも効果が波及していく。このような地域との協働が1回でもできると保健師が変わり地区への責任性も育まれるが、組織の中の制約により、若い保健師が経験する機会を作れないことがある。そこで、いい活動をしている人の活動を共有できる機会を作るなどの人材育成ができる」とよい。】であった。個々のケースマネジメントの経験を通して地域が変わる経験をする、地区への責任性が育成され、地区マネジメントを実施するようになる、と考えられていた。

「ある地区で高齢者の住民の世帯が多い中で、人口呼吸器をつけている人に災害対策の話をしたときに、周りが本当に、いろいろ足が痛いとか、やっと動ける人とか、若い人は50代で、その(周りの)人を何とかしてくれと。そこでふと思ったのは、やっぱり私たちが(個別支援の)対象としている人だけの対策をしていたのでは難しいなと思ったことがあるんです。その地区の高齢者の人に、まず自分の住まいの中とか、災害に対する勉強をすることで、地域の中のどうしたらということから始めて、初めて重症なあの人にも何かもっとひどいから、やってあげないといけないという気持ちが出てくるのかなと思ったことがあったので。」

5) ≪住民との協働活動のマネジメント≫

このシンボルマークは、【住民がビジョンを描いているときはそのビジョンに乗り、どう活かすかをマネジメントしていくが、そうでないときは住民の既存意識を新たな発想に変えていけるよう、住民の気持ちがどこに向いているか見ながら、地域の情報や課題を住民と共有する中で、住民が自分や地域の課題や地域に気付けることを信じて待ったり仕掛けたりする。住民が必要を感じたら、住民でできる形で活動を開始する。保健師と住民それぞれが地域に描くビジョンが合致していたらうまくいくが、合致しないときは共通点やできそうなことからやっていく。活動の効果と重要性を自覚できるよう、住民との距離感を保ちながら継続的なサポートを提供する。】という最終ラベルから得られた。

このシンボルマークは、行政保健師の地区活動と住民の活動との関係を見定めながら、それぞれの活動が協働活動に発展するようマネジメントをする、という認識を表していた。「住民が持つ力を信じ、住民がもつ地域のビジョンや住民なりの知識を活用することで住民の潜在能力を引き出し、地域の変化を誘発」していた。

6) ≪地区に出向く役割に基づくマネジメント≫

このシンボルマークの最終ラベルは、【保健師は地域に出てニーズや活動の手応えや気づきを得る役割があるが、担当の変化や事業に追われるようになり地区に出向く機会確保ができなくなってきており、その結果、地区活動のマネジメントを難しいと感じるようになった。そのため、協働の相手を考えたり、機会を逃さないようアンテナをはるなど、地区に出て住民との接点を持つ場をみる視点や場を活用する技術を駆使したマネジメントが重要になる。】であった。保健師の地区マネジメントは、保健師がもつ地区に出向く役割に基づくものであるとの捉え方がされていた。「地区に出ることは保健師の機能でありまた技術」であることから、「自分の肌でニーズを掴むための感性や地区との適切な距離感を保つ」必要があると考えられていた。

7) 《所属組織内に向けたマネジメント》

このシンボルマークの最終ラベルは、【地区のマネジメントと一緒に組織内のマネジメントが必要である。事務職などのマネジメントをみて学び活かしながら、自分が実施したいマネジメント活動をチームメンバーや上司へ説明し、地区に関わる様々な立場の保健師と一緒に考え、ビジョンを一致させていくことで、いい活動ができるようになる。】であった。

行政保健師は、より質の高い地区活動を展開するためには、地区に向けたマネジメントと合わせて所属組織内に向けたマネジメントが必要であると認識していた。

「例えば民生委員さんが（地区で）子育てサロンをやっているの、全然担当は違うんですけど、母子保健（の部署）は別にあるので、で、私がちょっと様子見てきますみたいな感じで、地区（担当）の保健師と行ってきますと言うと、やっぱり事務の課長にしたら、えっ、みたいな。何で行くんですか、みたいになる。そこはちゃんと説明ができないといけないんですけど、そういう事務の人にもわかってもらうというところも、まだまだできてないなというのは思いますけど。」

VI. 考 察

保健師の地区マネジメントの認識は、7つのシンボルマークに集約された。行政保健師の認識からみた地区マネジメントの特徴及び行政保健師の地区マネジメントを向上させる方法について以下に論じる。

1. 行政保健師の認識からみた地区マネジメントの特徴

1) 時代や制度の変化に応じたマネジメント

マネジメントの基盤となるのが《地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き》、《目的に基づく活動範囲の見定め》、《地区に出向く役割(に基づくマネジメント)》であった。ドラッガー（2008）は、「事業の目的とミッションについての明確な定義だけがマネジメントの職務と構造を可能に」し、さらに「顧客は何か」という問いが事業の目的とミッションを定めるう

えで最も重要だと述べている。本研究では、担当地区や担当事業の枠にとらわれずに支援の目的を明確化することで、活動範囲すなわち顧客が明確になり、さらに地区への責任性を果たすことがミッションとして捉えられており、この2つから、マネジメントが構造化されているという点で、ドラッガーの提唱するマネジメントとの一致が確認できた。

両羽（2018）は、地域包括支援センター保健師のマネジメント機能として、看護職として健康面や予防を意識した役割・ビジョンの明確化があったことを報告している。本研究では、地域住民に対する責任性という行政保健師の活動理念に基づいて活動ビジョンを描くことの必要性が、時代や制度の変化によって活動方法を変化させなければならない状況との関連で強く認識されていた。活動方法は変化しても、地区に出向くという役割、すなわちミッションを果たすため、自分の活動プロセスのマネジメントを行っていた。細谷ら（2013）は、今日の社会・制度・業務体制下において、業務分担や単年での異動、困難事例への対応、事務仕事の増加により地区活動が十分にできていないという課題に対し、個別支援や地区活動における他課他職種との連携の活用や、優先順位や対象のニーズの見極めによる臨時職員を多用した家庭訪問などの工夫で対応していたことを報告している。このように、時代や制度によって変化しない行政保健師のもつ事業の目的とミッションを果たすため、活動方法を変化させていることが、地区マネジメントの特徴として見出された。

2) 住民への関わりと地区マネジメントの関係

ケースのマネジメントの中で住民との協働を経験すると、そこから《住民との協働活動のマネジメント》が促進され、また、《住民との協働活動のマネジメント》ができると、《ケースのマネジメントから広がる地区のマネジメント》が促進されると捉えられていた。

飯野（2011）は、保健師が住民と行った協働活動には、地域づくり・まちづくりの制度やシステムづくり、地域ぐるみで取り組む健康づくり、個別支援対象者の支援体制づくりがあり、その成果として、活動の継続・広がり、住民の

意識の向上、そして保健師の意識の変化があったことを報告している。個別支援対象者の支援体制づくりは、世帯すなわちケース単位のケアマネジメントの一環として行われる。それが地域の実情に即したサービス提供や住民どうしのつながりの強化という成果に結びつくと、地区マネジメントとしての成果になる。以上より、地区マネジメントは、個人・集団・地域それぞれを支援対象とした活動において、地区住民との連携・協働の経験によって発展するものとして捉えられていた。

3) 所属組織の内と外に対する双方向のマネジメント

行政保健師は、自分自身の活動プロセスや協働活動をマネジメントすることに加え、所属する《所属組織内に向けたマネジメント》を行っていた。宮崎 (2017) は、「保健師の実践活動は、『対象者・家族および地域の関係者・協力者等への働きかけ』と『行政組織への働きかけ』のそれぞれの実践活動過程を連動させながら、地域全体の健康や生活の質の維持および向上という目標を達成するところに、保健師の管理機能のダイナミックな働きがある。」と述べており、本研究の対象者も、宮崎と同様の認識を有していた。

所属組織内に向けたマネジメントが語られたことについて、本研究の対象者が地区活動の経験豊富な保健師であり、多くが現在管理職の立場にあることも関連していると思われる。日本看護協会 (2005) が明らかにした地域保健の看護管理機能のうち、地区管理や事例管理は初任期から担う実務的管理機能であるが、組織運営管理は職位に付随して担う職位付随的管理機能と位置付けられている。

しかし、「地域における看護管理は、保健師の実践活動そのものの意義と重なるので、管理的立場にある保健師の機能というよりも、個々の保健師の専門性にかかわる機能として理解する (宮崎, 2017)」必要があり、また、荒木 (2009) は、「保健師が組織の一員として組織の決定に参画し、保健師自身の活動の在り方を決定し、計画的に実施することで、自立度を増すことになる」との理由から、新任期の保健師に

も地域の管理能力が必要であると主張している。ドラッガー (2008) も、マネジメントの権限や上司部下という現実の中で、「全員が自らをマネジメントの一員とみなし、マネジメントとしての責任を持つ組織を目指」すことを提唱している。また、ミンツバーグ (2011) は、専門家型組織において現場の専門家たちが新しい取り組みに挑戦することを通じて戦略が生み出されることから、マネジャーの肩書を持たない人物が行うマネジメントの重要性を指摘している。以上より、行政保健師の地区マネジメントは、地区活動を質の高い活動として実施し、成果を上げるために、職位に関わらず所属組織のマネジメントの実施を含むものであると考える。

2. 行政保健師の地区マネジメントを向上させる方法

行政保健師の地区マネジメントは、時代や制度によって変化しない行政保健師のもつ事業の目的とミッションを果たすため、所属組織と地域双方に向けた活動の方法を変化させていくものであり、個人・集団・地域それぞれを支援対象とした活動において、地区住民との連携・協働の経験によって発展するものであった。そこで、地区マネジメントを向上させるには、ケースのケアマネジメントの中で地域住民との協働を行う経験を積み重ね、その経験を振り返ることで行政保健師のもつ事業の目的とミッションを再認識することが重要だと考える。

また、《状況に合わせた活動プロセスのマネジメント》では地域課題の分析能力が、そして《地区に出向く役割に基づくマネジメント》においては地区住民と直接関わる機会を活用する技術を向上させることの重要性が語られていた。これらは、地区活動の企画及び実施の段階において用いる能力を向上させることが地区マネジメントを向上させる可能性を示している。

荒木 (2009) は、保健師に地域管理機能の発揮が求められているものの、保健所の組織体制や都道府県の継続教育体制の課題があることから、現在の自治体の体制で地域管理能力を形成していくには限界があることを指摘している。本研究の対象者は、個々のマネジメント能力の限界について、他者との協力で補ったり、事務

職からマネジメントを学んだりして対応していた。そして、よい活動をしている人の例を共有することで能力が向上すると考えていた。

以上より、行政保健師の地区マネジメントを向上させる方法として、個々の保健師が個別支援及び住民との協働活動に取り組み、その結果を地区マネジメントの視点で省察すること、地区活動プロセスの各段階における実践能力を向上させること、マネジメント活動の好事例を共有し学ぶ機会を設定すること、の3つが示唆された。

VII. 研究の限界と今後の課題

本研究は対象者の選定方法にネットワークを活用しており、また、対象人数が10人であり、データに偏りがあった可能性がある。今後、中堅期や新任期など、異なるキャリアステージにある保健師の認識を調査する必要がある。また、本研究で明らかにしたのは認識に基づく地区マネジメントであり、より実証的な調査を行い、行政保健師の地区マネジメントを向上させる方法について明らかにしていく必要がある。

謝 辞

本研究を行うにあたり、ご協力を賜りました対象者の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究の一部を日本地域看護学第19回学術集会で発表した。本研究は科研費の助成（課題番号26463564）を受け実施したものである。本研究について、開示すべき利益相反事項はない。

<引用・参考文献>

荒木紀代子，高野奈央子（2009）．地域看護管理：アドミニストレーションからのアプローチ，ブイツーソリューション．

飯野理恵（2005）．保健師と住民の協働における看護活動方法の特徴—住民との協働に関する文献検討を通して—．千葉看護学会，11(2)，16-22，2005．

石川志麻，宮崎美砂子，石丸美奈（2012）．市町村保健師の委託事業を利用したマネジメント行為の特徴．千葉看護学会誌，18(1)，

77-85．

佐伯和子，和泉比佐子，加藤欣子他（2001）．保健活動における地域の看護アセスメントの課題—保健婦の認識を通して．日本地域看護学会誌，3(1)，142-149．

市町村保健活動の再構築に関する検討会（2007）．市町村保健活動の再構築に関する検討会報告書．

社団法人日本看護協会（2005）．保健師に求められる看護管理のあり方—地域保健における看護管理の概念整理—，平成15年度・16年度保健師に求められる看護管理のあり方検討小委員会報告書．

高橋美美，高尾俊宏：保健師の地域診断実践に影響する要因に関する研究．高知大学学術研究報告 医学・看護学編，56，21-29，2007．

地区活動のあり方とその推進体制に関する検討会（2008）．平成20年度地域保健総合推進事業 地区活動のあり方とその推進体制に関する検討会報告．

P.F. ドラッガー（2008）．マネジメント—課題，責任，実践—上．ダイヤモンド社．

中板育美（2009）．エリアマネージャーとサービスマネージャーの重層的地区活動の提案．保健師ジャーナル，65(10)，822-829．

平山朝子（2018）．第2章 地区活動論3．看護職として地区活動でめざすもの．最新公衆衛生看護学総論2018年度版．日本看護協会出版会．

細谷紀子，大光房江，丸谷美紀他（2013）．今日の社会・制度・業務体制下における地域のニーズに応じた保健師活動の工夫の特徴．千葉看護学会誌，19(1)，35-44．

水口真弓，深津恵美，廣田洋子（2008）．保健所保健師の現任教育（職場内研修）を考える—事例管理に着目した教育プログラムを導入して—北海道公衆衛生学雑誌，21(2)，158-165．

宮崎美砂子（2017）．第3章II 行政看護管理活動．最新公衆衛生看護学各論2 2017年度版．日本看護協会出版会．

ヘンリー・ミンツバーグ（2011）．マネジャーの実像「管理職」はなぜ仕事に追われているのか．日経BP社．

- 山浦晴男 (2012). 質的統合法入門 考え方と手順. 第1版, 医学書院.
- 両羽美穂子 (2007a). 地域づくりにおける保健師のマネジメント活動の特徴. 千葉看護学会会誌, 13(1), 69-76.
- 両羽美穂子 (2007b). 地域づくり活動における保健師のマネジメント機能. 千葉看護学会会誌, 13(2) 72-79.

- 両羽美穂子 (2010). 地域づくりにおける保健師のマネジメント能力の開発・発展過程～研究者と実践者の協働的アプローチより～. 千葉看護学会会誌, 16(1) 45-52, 2010.
- S・ヴォーン, J・S・シューム, J・シグナム (1999). グループ・インタビューの技法, 慶應義塾大学出版会.